

シリーズ企画で、 作るほど学習が残るSNS運用へ。

— 制作会社のノウハウを、社員が再現できる運営の仕組みへ。

同じ問いの仲間を、同じ型で積み上げる。

対象

誰の疑問へ答えるシリーズか

約束

毎回どんな役立ち方をするか

型

共通にする構成や見せ方

学び

各回の反応を次へ戻す記録

一本ずつの経験を、次の判断へつなげましょう。

連番だけでは、シリーズの軸は残らない。

- 毎回の対象や目的が変わっていないか
- 同じ話を言い換えるだけになっていないか
- どこを改善したか記録できているか
- 途中の一本から見ても理解できるか

シリーズ名やデザインに加え、答える疑問と共通ルールを定義します。

見た目の統一を、**内容と学びの統一**へ広げましょう。

シリーズの約束を、一文で書く。

誰へ

初めて導入を検討する担当者へ

何を

よくある準備の疑問に答える

どう

一回一問、確認ポイントを示す

次へ

関連する説明を見つけやすくする

架空の設計例です。自社の顧客が実際に抱く問いへ置き換えます。

毎回の役立ち方が分かると、企画を選びやすくなります。

候補は、検討の順番と疑問の種類で並べる。

知る前

何に困り、なぜ調べるか

選ぶとき

何を比べ、どこで迷うか

始める前

誰と何を準備するか

使った後

どこを確認し、どう見直すか

順番は案内のために使い、各回は一つの疑問で完結させます。

入口の違う人にも、必要な一本が届く構成へ。

制作実務と育成実務を、 同じ流れで教えられる。

ショート動画屋さんは、広告、SNS運用、通販、営業、採用など目的の異なる動画を
200社以上・3,000本以上制作してきました。

ディレクター・構成・撮影・編集を分け、複数人で速く品質を揃える制作フローを運用しています。

制作フロー（役割を分けて、速く品質を揃える）



内製化支援での引き継ぎ

実際に制作へ携わる担当者が、
この流れを企業の人員・目的・
頻度に合わせて移します。

実際の流れをそのまま社内で再現し、**制作を続けられる体制**をつくりましょう。

固定するものと、検証するものを分ける。

固定する候補

対象、役割、基本構成

検証する候補

冒頭、具体例、情報の順番

必ず守るもの

事実、権利、公開条件

記録するもの

変更理由と反応

一度にすべてを変えず、今回確かめたいことを一つ決めます。

型を土台に、変えた理由の分かる改善を重ねましょう。

台本の共通部分を、作業の見本にする。

冒頭

今回答える問いを示す

結論

一番伝える答えを置く

理由

具体例や根拠を添える

補足

条件と次の情報を案内する

テンプレートは内容を埋めるだけの枠にせず、読みやすさと必要な説明を確かめます。

共通の型があると、内容を磨く時間を取りやすくなります。

シリーズ台帳で、各回の違いを追えるようにする。

- 番号と答える疑問
- 想定する相手と主な役割
- 仮説と変更した箇所
- 担当、公開日、公開先
- 反応、負荷、次に試すこと

台本・素材・完成版の保存先もひもづけます。

探せる記録が、**担当交代**と**改善**を支えます。

まとめて作る前に、**小さな単位で確認**する。

企画

疑問の重複と説明の順番

台本

根拠と条件の抜け

撮影

共通素材と各回の差分

編集

字幕やCTAの整合

同じ誤りをまとめて増やさないよう、最初の一本で確認基準をそろえます。

一度の確認を、**次の制作にも**活かしましょう。

CTAは、動画の役割に合わせる。

理解を深める

関連する解説を案内

比較を助ける

資料や条件を案内

相談を助ける

問い合わせ先を案内

応募を助ける

募集情報を案内

プロフィールや誘導先も、動画で伝えた内容と整合させます。

必要な人が、無理なく次の一歩を選べる導線へ。

継続できる本数を、役割と時間から決める。

- 企画を集める担当
- 撮影・編集する担当
- 内容と公開可否を確認する担当
- 反応を記録する担当

兼務と確認時間を見込み、繁忙期の本数調整や外部支援も決めます。

続けられる制作ペースが、**学びを積み上げる**土台です。

単発の最高値より、各回から何を学んだか。

反応

どの疑問に質問や保存があったか

構成

どこで理解しにくくなったか

導線

必要な情報へ進めたか

負荷

無理なく制作と確認を続けられたか

数字だけでなく、対象・時期・公開条件の違いも残します。

同じ軸で振り返ると、**次に残す型**が見えてきます。

続ける・変える・終える判断を用意する。

続ける

新しい疑問と学びが残っている

変える

対象や構成の見直しが必要

分ける

別の目的の問いが増えてきた

終える

答える範囲を扱い終えた

一回の数字で決めつけず、反応と制作負荷を合わせて判断します。

役割を果たしたシリーズは、次の企画へ知見を渡せます。

最初は、少数の候補から一巡させる。

モデルケース

- よくある質問を10個集める
- 少数を同じ型で公開する
- 反応と制作負荷を比べる
- 続けるテーマと変更点を決める

進め方の例です。本数や期間、成果を保証するものではありません。

作る・振り返る・次を決める流れを、**少しずつ**育てましょう。

一本の学びを、シリーズの力に。

今日決める5つ

- シリーズの対象と約束
- 最初に答える疑問の候補
- 固定する型と試す変更
- 各回を記録する台帳
- 続け方を見直す日

ショート動画屋さんの内製化支援では、貴社に合う役割・手順・改善方法を一緒に設計します。

自社の内製範囲を相談する